

## 高麗郡建郡1300年記念 第16回 狭山市民芸術祭で ～心のルーツを再発見～

巾着田で有名な、日高の高麗の郷。それは今から1300年前、コマヒト(高句麗人)の集落「高麗郡」として誕生した地域で、建郡者は高麗王若光。高句麗の王族、玄武家の長男で、若干17歳の時、高句麗の存亡を担って遣使として倭の国(日本)に派遣された。しかし滞在中に、高句麗は完全に滅び、帰るべき国を失った。その後、高句麗から渡来した、1799人と共に、当時辺境の地であった、高麗の郷に集落を作り、高句麗の文化や歴史を子々孫々に繋いで、およそ73年の生涯を閉じた。

数奇な運命に翻弄されながらも、異国である倭の国で、高句麗の血脈をつなぐために、50年余にわたって奮闘した壮絶な一生は、「人に歴史有り」という言葉を、はるかに超えたものだった。己のルーツである高句麗の文化を、揺るぎない縦糸に据え、倭の国の、異なる文化を横糸に絡ませて、美しい高麗の郷という織り物を完成させた。

翻って現代の日本は、明治維新以来、西洋化が定着し、衣食住は、今ではそれが標準になっている。文明の発達とともに、それは不可欠だったに違いない。しかし、数千年の人類史の中で、脈々と遺伝子に組み込まれてきた「文化意識」というと、何百年でそう簡単に変わるものではない。昨今、オリンピック招致活動以来「おもてなしの心」が話題になり、世界から「日本的な考え方」が評価されるようになってきた。しかし我々自身は、懸命に採り入れてきた西洋的文化と、血肉から無意識にほとぼしる、日本的な文化感覚のはざまに、縦糸も横糸も混ぜこぜになり、自分を見失っている気がする。

ルーツ意識、それが曖昧だと、自分にも自信が持てず、相手の優れた面も漠然としかつかめない。私達は日本人なので、根本的なルーツである「日本の心」をまず臍下丹田に落とし込むことが、本物の誇りを取り戻す近道ではないだろうか。

貴方に歴史有り。市民芸術祭全体を楽しんで頂いた上で、更に、若光の生涯に触れる事で、ご自分を再発見して頂ければ、主催者としてこの上ない喜びです。心よりお待ちしております。

高麗郡建郡1300年記念  
**第16回 狭山市民芸術祭**  
 2016年2月23日(火)～28日(日) 会場：狭山市民会館

時の流れにのせて

☆コンサート  
 『音楽へのいざない』～会場と音楽による～  
 2月28日(日) 大ホール  
 開場13:00 開演13:30 (有料)

☆舞台発表 『世を越えて』  
 2月27日(土) 小ホール 11:00～16:30 (入場無料)

☆展示 絵画・彫刻・工芸・写真・いけばななど  
 2月23日(火)～28日(日) 9:30～17:00(都日13:00～)

☆茶席 1F ロビー (有料)  
 2月27日(土)・28日(日) 10:00～15:00

☆特別展示  
 2月27日(土)・28日(日) 大ホールロビー  
 9:30～17:00 (入場無料)

主催：狭山市文化団体連合会 共催：狭山市民会館 後援：狭山市・狭山市教育委員会・埼玉県教育委員会・社/高麗1300  
 お問い合わせ：狭山市文化団体連合会 (090-6714-6048) <http://www.bunren.org/>